

☆結核の豆知識☆



結核って？

結核とは、「結核菌」による慢性の感染症です。

肺でおこることがほとんどですが、血液やリンパ液によって全身の臓器に結核菌が散らばり病巣をつくる「粟粒結核」、脳や肺をつつむ膜に病巣をつくる「結核性髄膜炎、結核性胸膜炎」など体のいろいろな部位におこります。

結核の症状って？

咳や痰、発熱、体重減少、食欲低下、全身倦怠感などが主な症状です。

初期症状はかぜと似ているので、せきや痰、発熱などの症状が2週間以上続くときには、必ず医師の診察を受けてください。

高齢者は、咳や熱など症状が出ない場合もありますので、いつもとなんとなく様子が違う時などでは、結核も疑ってください。

結核に「感染」するって？

結核菌の混じった咳やくしゃみのしぶきを吸い込むことで感染します。

多くの場合は、結核菌を吸い込んでも鼻やのど等の粘膜に引っかかり体の外に追い出されるので、必ず感染するものではありません。

結核を「発病」するって？

結核菌に感染しても発病するのは10人中1～2人です。通常は体の免疫力が結核菌の活動を抑え込みますが、加齢や病気（糖尿病や腎不全など）で免疫力が下がった時に結核菌が活動をはじめ、菌が増殖して発病することがあります。

結核を発病しても、体の外に結核菌が出る状態（排菌）でなければ、周りの人に感染させることはありません。

結核の検査って？

結核の検査には「感染を調べる」検査と「発病を調べる」検査があります。

○感染を調べる検査：IGRA 検査と呼ばれる血液検査を行います。

乳幼児の場合、ツベルクリン反応検査でも調べることができます。

○発病を調べる検査：肺で病巣ができていないか胸部レントゲン検査を行います。

痰に結核菌が含まれていないか喀痰検査を行います。

結核の治療って？

3～4種類の薬を6～9ヵ月間服薬します。

服薬を勝手に中断したり、不規則な服薬をすると、薬の効かない結核菌（耐性菌）が増えて、重症化してしまうことがあるので、指示通りの服薬が大切です。保健師等が治療終了までサポートさせていただきます。

体の外に結核菌が出る状態（排菌）の場合は、結核病床への入院が必要になりますが、



排菌がなくなれば通院の治療となります。

発病予防のために

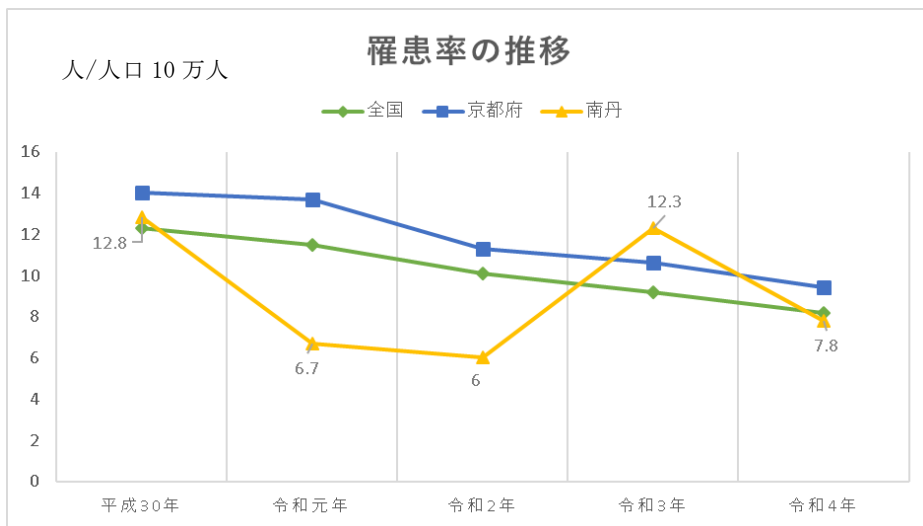
- ①職場健診や住民健診などで年1回は胸部レントゲン検査を受けましょう。
- ②免疫力が低下しないよう、食事・睡眠を十分とり、適度な運動をするなど規則正しい生活を心がけましょう。禁煙することも大切です。
- ③乳幼児の結核の発病を予防するため、生後1歳までにBCGを接種しましょう。
(詳しくはお住まいの市町にお問い合わせください。)
- ④咳や痰など、結核を疑う症状が2週間以上続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。



南丹保健所管内（亀岡市・南丹市・京丹波町）の状況

年間10～20人が新たに結核と診断されています。診断された方のうち約7割が65歳以上の高齢者です。

結核がまん延していた時代（昭和25年頃まで）に結核菌に感染した方が、高齢になり免疫力が低下したことで発病することが多いと考えられます。



	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
全国	12.3	11.5	10.1	9.2	8.2
京都府	14.0	13.7	11.3	10.6	9.4
南丹管内	12.8	6.7	6	12.3	7.8
管内患者数	17	9	8	16	10
管内LTBI数	7	5	0	6	6

※LTBI（潜在性結核感染症）：結核菌に感染（体内に存在）しているが、症状や所見はなく、感染性がない状態

<南丹保健所では結核に関する相談や出前講座の依頼を受け付けています。御希望の方は担当までご連絡ください>

南丹保健所 保健課 感染症・難病係
電話：0771 - 62 - 2979